

第十六号

西多摩医師会報

第16号昭和48年10月7日発行

発行所
西多摩医師会
発行人 高水 武夫
編集責任者 箱崎 淳
青梅市西分 3-103
郵便番号 198
電話 (0428) 23-2171
2172

原稿毎月15日夕切



ふん
風
や

ちいさい
舞
の

ふん
が
—
に

ふん
が
—
と

す
く
じ
の
よ
る

き
り
ぎ
の
す

—
茶
—





目次

☆ お知らせ	高水 武夫	1
☆ 時論		
先進諸国の医療形態を探る（其の十二）		
南国イタリアの社会保険について	小泉 新策	2
☆ 随筆		
結核のアレコレ（其の四）	岸田 壮一	7
アローハ	つつみ	13
☆ 紀行		
TMM本部ドライブ会に参加して	速水 完一	18
☆ ニュース		21
☆ 各部だより		24
☆ 編集会議余滴		26
☆ 西多摩医師会報に対するアンケートへの御解答		29
☆ アンケート		30
☆ 編集後記		32

「六十周年史編纂委員会からのお知らせ」

会長 高水 武夫

本年五月に委員会発足以来、西多摩医師会六十年史を今年中に刊行すべく、鋭意努力致して居り、既に御依頼してある原稿もありますが、更に次の事項について会員各位の御協力をお願致したく、お知らせ申し上げます。

1. ユニークな年史にしたいと思いますが、何か名案なり御意見なりありましたらお教え下さい。
2. 西多摩らしく、自然美を主題にした写真を多数入れる企画をして居ります。次の要領でその写真を一般募集致します。
大きさ……カラー、モノクロ共八ツ切り大。
賞品つき……審査の上、会長賞・副会長賞が付きます。
3. 六十年史にふさわしい、懐古談、追憶、又は現在の活躍を伝えるもの、或は将来の希望等、自由題での御投稿をお待ちして居ります。（四百字詰め原稿用紙に横書きでお願い致します）



先進医療諸国の形態を探る

(其の十二)

南国イタリアの社会保険について

日医代議員 小 泉 新 策

イタリアの医療保険に加入している労働者は(家族を含む)業種別により三つの部門に区分する。第一はINAM傘下組合、これは鉱工業、商業、農業(但し自営の農業者は含まない)銀行等金融業に働く労務職員及びこれらの退職年金受給者。これらの人々は総人口の二分の一を占める民間企業労務者の部門であって医療保険の主流である。

第二は各種公務員を母体とする官公労務者の部門で、被保険者数の一六%を占めている。

第三は自営農業者、手工業者、自営商業者を主体とする自営労働者部門であって総人口の二三・四%を占めている。一二万八〇〇〇人で組織している医師健保組合(ENPAM)二万九五〇〇人の薬剤

師健保組合(ENPAF)、助産看護婦(ENPAO)獣医師(ENPAV)の小組合。大はINAMから小は建築技師組合まで三部門二組合という多数の健保組合を包括しているわけである。

医療給付についてはINAMの概略は前述したが第二グループの公務員労働者の部門では一般、専門、入院、薬剤の四項目については基本的に法定給付で定められているが被保険者は診療費と予め窓口払いをしてあとから保険事務所へ請求をする所謂「療養費払方式」である。患者が自らの責任で提出する申請書で償還をする方式である。四つの給付のうち専門医療と入院治療に対しては患者の意志で直接方式か間接方式(一時立替払)かのどちらかを撰択することが出来る。このことはイタリアの医療保険の複雑な面で弾力性のある運営が伺える。

第三部に属する組合はその運営は他の一、二部々門より遅れていて完全に組織化されて居ないことと、前記四基本給付の中薬剤給付は法定化されていない。現物給付も完全ではないのでこの面での整備が必要であるが統一化されるにはまだほど遠い感がある。出来高払いのものもあるがこれの診療報酬は保険機関と医師会全国連合会との間に協定を結びその基本線に沿って各県医師会が個別に再締結を行っている。

医師が医業を営み薬剤師がその職能を果すためにはそれぞれの地区の医師会、薬剤師会への登録をすることが義務づけられていて各々の倫理も厳しく規定され、各県医師会の活動は医師会全国連合会に

よって代表されている。診療報酬の引上げ交渉、医師の給料や待遇改善の問題等を始め保険診療に関するINAMとの折衝は医師会全国連合会が当たる。ストライキ好きな国民性のためか診療報酬の契約をめぐる紛争が屢々あり紛斗して当事者間で収拾出来ず、社会保険機関監督責任の最高である労働省が調停する機会が多くなつて来ている。

被保険者である患者は主治医の撰択は自由でINAM医師登録リストから自由に撰択出来る。INAMと協約締結している一般開業医は四三〇〇〇人、一人の医師は最大一五〇〇人まで患者登録が受けられる。一般開業医への医療料金支払方式はイギリスの「人頭割方式」と西欧諸国採用の「出来高払い方式」とが共存している。何れか一つ方式を具医師会が撰定することになっている。一国の制度の中で二つの支払方式を制定していて、その自由な撰択を医師会の自主制に委ねていることは特徴である。患者に対しては概算払いがなされているがこれには業務により登録患者一人当り年間幾らという支払基準がきめられていて、七〇年十月現在の固定額は農業労働者に五、四四五リラ（二一、一五八円）その他鉱工業、商業従事者などは一率に五、七七〇リラ（三、三四七円）六才未満の児童は六、五一〇リラ（三、七八五円）年金受給者は七、二五五リラ（四、二〇七円）である。従って一五〇〇人の登録を受持つ開業医の月収は約四〇万円と五〇万円という額になる。又出来高払方式は予め締結されている料金表に照して診療内容の精算によってINAMに請求

する方法で日本の現行制度とはほぼ似ては居るが日本のような審査機関はない。従って萎縮診療とか、医療の本質的理念を侵害するような問題も、又トラブルもない。医師会内部での倫理感の徹底と使命感に徹するよう指導が行きとどいて居るので、医療の本質を犯すような不当な審査圧迫は見られない。前記の人頭割方式と出来高払方式は確かに複雑で、概算払方式を併せ実施している点では日本の甲乙二表の問題どころではなく複雑である。勿論これ等の問題はイタリアの保険財政に影響するところ大であり、赤字に苦慮する原因の要素であるとも云える。概算払には医療サービスの質の低下と、又出来高払には医療費過多になるデメリットがつきまとうこととなるので、この問題点の解決策はイタリアの悩みである。INAMはこれ等の解決策の端緒をつかもうとして自ら実験を試みて居り、やがては概算払方式に統一しようという動きが見受けられる。併しこれには医師会側の同意が必要であるが、その協力が現在では得られていない。西独では二者択一制をとっていることを前にも述べたつもりであるが、保険システムの中で制約されつつ最高の医療を供給することの難かしさが、医療の本質に触れる問題であるだけに、何れの国でも共通した悩みとする点である。

次には病院と診療所と薬局の状況を述べるが一般に医療供給の場所は病院であり、開業医院であり薬局であるが、専門医療給付の場として保険組合直営の診療所がある。この直営診療所をアンブラトリオ（Ambulatorio）と呼び被保険者一人に一診療所の割合で開

設している。最大組合であるINAMは全国にアンブラトリオを九〇〇ヶ所開設していて、二七〇〇万人を対称に年間七七〇億リラ（約四四四億円）を投じているという。被保険者一人当りは二、八五〇リラ（一、五三二円）となる。この費用額はINAMの扱う年間医療給付費の約六・七割に相当する。INAMは一九六六年九月専門医学会との契約調印によって、全国ネットワークを組織して高度医療の導入を目的として運営されている。又スペシャリストとなるためには毎年九月地方医師会経由で提出した申請書の資格審査をパスしたものに限り又専門医療を行うための設備についても法律によって定められていて、この手続きを要するわけである。

イタリアの病院数は約二五〇〇で国公立病院がその大部分であり、クリニックと称する私立病院は僅かに一七割である。INAMは直営のアンブラトリオは所有しているが病院は持っていない。被保険者の入院は病院当局と特別協定によって行われている。患者一人当りの治療代、薬剤料、手術料、食費、ベット料等一切を含めての固定額で病院への支払いは所謂「どんぶり勘定方式」で行っている。この固定額は保健衛生大臣の政令によって定められる。随ってINAMと病院医師との間には原則的には直接関係は生じない。

一九六八年統計ではINAMと病院との協定を結んでの総医療保険給付費の三九割相当の四四八〇億リラ（二五九八億円）を支払っている。これによると一件当たり平均一〇万リラ（約五七、六〇〇円）である。入院支払額は一日当たり四、二九三円、又最近医師会よりの

要求によって医師料をつけるようになったが、入院患者一件当たり支払平均九、八九四円であるので一日当たり七六一円相当である。私立のクリニックに就ては医師会が最低料金を定めているが、一日当たり一件約一〇、七四〇円、医師料約八五〇円である。

イタリアの医療制度の中には「薬価の割引き制度」がある。医師の処方箋によって投薬する保険薬品は薬価リストに照して医療保険組合に請求をする。処が薬局とその薬のメーカーに対してそれぞれ五割と一二割との計一七割の割引きを医療保険組合が受け取れるように法で定れている。この割引きを受けられる組合が二一ある組合中で九組合に限定されている。前記割引率は一九七〇年八月以後は六割、一九七〇年合計二五割に引上げられている。

イタリアでも医療費増高に苦慮していることを示しているが、その原因の幾つかを上げると「病院コストの急上昇」がその第一であつて、一九六八年の病院改革法によって高度医療への脱皮、それに要する諸施設の充実、専門医師の人員費上昇、これ等はINAMの統計では一人一日平均入院料が一九六七年に六、〇三三リラより六九年には七、四〇三リラにと二三割の上昇を示した。更に新しい改革法によって一挙に一九七〇年には一四、〇〇〇リラ（八、一二〇円）と跳び上って居ることである。次に第二の原因としては老人医療の増高のことがあげられている。年金受給層の高い受診率は保険財政を圧迫する。何れの国も洋の東西を問わずこのことは同じである。第三の原因は医療技術の発達と、高価薬の出現という医学的薬学的

進歩の影響であり、更に一般大衆の薬物依存度の向上にもよるといわれる。次には医療費増嵩に対する対策として、どんなことがなされているか、今日の自由経済国にあっては、経費の増えるのは止むを得ない自然現象であつて、国家の強権統制でやるならいざしらず自由経済圏では不可能なことである。医師団の協力がなければ診療というものはなり立たない。診療料一つ改訂するのにも相手医師会の同意がなければ出来ず、薬の割引率下げ八割を強行するにも非常な努力を重ねての結果であると思つて居るが、日本の現況から見ても当にその通りであると思つて居る。中医協に於ける委員会の経過を見ても熟々それを感じる。今般の委員会の再会後も既に半年を経過して居るのに何等決定的な見るべき成果が得られていない。イタリアの医療行政には弾力性と迫力が感じられて、ほほえましい。

世界的医療増嵩の傾向を一寸拾つて見ておくと、一九六八年に医療費総額一兆四五七億リラ、六九年には一兆六四二億リラ（九四二億九千九百九十九万九千九百九十九円）、又病院その他への支出分赤字が収入一兆二〇〇億リラ（六九二億九千九百九十九万九千九百九十九円）、支出が一兆六〇〇億リラ（九二一億六千九百九十九万九千九百九十九円）、差額四〇〇億リラの赤字である。政府援助が四七六億リラ（二八八億九千九百九十九万九千九百九十九円）あつたが焼石に水であつて医療機関や薬局への未払累計額は四五〇億リラを超えていて、競争で納めた薬局の薬代が一年以上も未払で薬局経営を甚しく圧迫している有様である。この医療危機を如何にして切り抜けるか、今後のイタリア行政の注目に値するところである。

次にイタリアの医薬品について一寸ばかり触れておくこととする。イタリアでは医薬分業は古い歴史の上に確立して居て薬剤師の職能も自然と培われて国民的生活の中に生きている。医薬品と名のつくものは一万三〇〇〇品目、ドロゲリー（薬舗）が独占的に供給している。又流通価格と小売マージンと、メーカー仕切価格を法律で制定している。薬局マージンは現行小売価格の二三・六％、メーカー仕切り価格は小売価格の六四・二四％に規定されている。卸マージンは別に規定がない。メーカー、卸、薬局の三者協定によつて居る。現在六・九五％となつて居る。取引高税は小売の五・二％が決められて居る。薬品の病院への納入は右の規制から除外されていて、自由競争が出来ることになつて居る。メーカー間の競争は可なり激しいものがある。大包装、大量取引で、売値の五五％以下もあるというが、保険組合からは一切干渉なしで、又薬剤割引料も免除されている。流通量から推して大別すればメーカー売上げから見ると卸へ七〇％、直接薬局へ一三％、病院直納が一〇％と推計区分される。一九七〇年、コロンボ内閣で医薬品製法特許制度が制定された。特許は一〇年間有効で製造工程のみに限定している制度で、フランスの複雑困難な制度とは全く違つて居る。

イタリアではこれまでパテントフリーであつた製薬法が規制を受けることになつた。メーカーにとつては研究開発の奨励となる一面、大企業の模倣で製品が可能であつたものが、この面では閉鎖されることとなる。鬼もあれ医薬品界でもEC諸国の中で先進国への仲間

入りが出来たことになったわけである。

以上でイタリアの社会保険についての記述は終るが、西欧の南国イタリアに就ては民情や歴史や嗜好、物産等に就ては周知されていても、社会保険の内容に就ては先進国イギリスやスウェーデン、西ドイツほど知られていないので制度上でも色々特色があつて興味があつたので、かいつまんで略記した次第である。

『ひと口咄』

嫁が仕極きやうでよく働き、親父のさかやきをそつてやる時、美しき肌への乳が、親父の口びるにさわつた。親父われを忘れてなめる所を、息子みて大きに腹をたて「さてさて親父にはあるまじきなされかた、女房が乳をなめてのたわむれ、御所存の程うけたまわりたい」ときめつくれば、親父ひらき直つて「おのれは、おれが女房の乳を五年といふもの、くらつたではないか」。



(創業60周年)

医薬品・化学薬品・工業薬品・卸

本郷薬品株式会社

多摩営業所 東京都日野市上田 424-3
〒 191 電話 0425(83)6331(代表)
本社 東京都文京区本郷5丁目24番7号
〒 113 電話 (815)2511番(大代表)



結核のアレコレ (五)

(福生病院勤務) 岸 田 壮 一

結核の遺伝とか体質とかも論議された。勿論結核菌が発見されてから遺伝因子による本当の意味の遺伝は誰も信じなかったが、家族内感染は相当濃厚なものがあつたから事実上遺伝のようなものである。家族伝染性又は家族集積性などが考えられた。この調査報告も沢山あり、母親から子供への感染が強いのは論を俟たないが、不思議なのは夫婦間の感染は数字の上では存外少なかった。この意味はよく解らない。後になって祖父母から孫への伝染が意外に多い事実が解つた。家庭の習慣の変化によるのであろう。夫婦共稼が多く孫の世話を年寄りがするようになつたからかも知れない。ただ父母の年令層は検診を受けながら成人したが、老人は左様なことなく成年期を過ぎてしまつていたことにもよつたであらう。これからみると結核の自然治癒も実際には大分あつたとも想像出来る。

結核に罹り易い体質が遺伝するということもよくいわれた。でもその体質とは何であるか明確ではない。各種の身体的特徴を挙げて統計をとつた人もあるが結局は解らなかつた。例えば感じとしては女性性は美人がそうだといわれた。「美人薄命」などの字も影響したかも知れない。憂いを含んだ眼差しで顔が白く頬に赤味が浮いたようなのがその感が深い。でも後になって考え直してみると、これ自身が腸結核の初期症状であつたともいえるので、結核の体質などはないと考えた方がよさそうである。

私達はX線写真で結核を診断するように始めから教わつて、打聴診の如きは眼中になかつた。でも私達より一時代前の人は大したもので、空洞の所在位置など適確に当てた。でも知つたかぶりをしてサッパリ当てにならない先輩も居た。聴診器だけで所見を回示してあるのを見るとX線写真とはどうみても左右逆であることもあつた。話はスッカリ前後するが、敗戦と共に陸海軍の部隊は消滅したけれども病院だけ残つた。現に入院している患者を他へ移すことは出来なかつたからである。それで陸海軍病院は厚生省に引継がれて国立病院になつた。戦後の虚脱でロクな病院もなかつたから、元は陸海軍のものでも旧軍人のためだけでは困るので一般住民の診療や入院も引受け、その地域の普通の病院になつた。

それより前に戦争遂行中は物資医薬品も欠乏し、人も足りないのが民間の一般病院や府県市立の結核療養所等は日本医療団という法人の管理下に入り、これに運営を委せたのである。戦況が急迫して

来ると何の事業もむづかしく、他に例えば交通営団とか農業開発営団のようなものも出来て、国家目的に従い全国画一に経営することになった。医療は営業の印象を与えてはならないので「営」の字を抜いて「医療団」としただけである。実際には戦況が苛烈で医療団も名前だけでロクな仕事も出来なかった。

終戦後このような戦争目的に作られたものは総べていけないと総司令部から解散を命ぜられた。そこで各医療機関はそれぞれの身の振り方を考えた。が、結核療養所は創立当時の府県或は市に帰ろうという声もあったけれども実際にはこれも急には困難であったので、国が引継いで国立療養所になった。そして傷疾軍人療養所も同じく国立になった。結核防止が国策の重要なもの一つであったからでもある。従来は陸海軍病院でも軍の部隊がなくなるとその地方人口としてはそれ程の大病院も必要ないからとの理由で療養所になったものもある。そして厚生省医務局に国立病院課と国立療養所課とあって、それぞれ病院と療養所を業務指導監督することになった。尤も療養所は大部分が結核であったが、癩と精神病のものもあった。

然るに結核患者を発見して療養所に送り込む意向であった健康相談所的那种ものが保健所として法制化されると、これが府県立であつて何となく連絡に不便であること、患者の絶対数が国の機関にのみ頼っていたのではトテモ足りないの府県立の療養所が又新に大分出来た。又大会社や学校教員或は公共企業体公社なども療養所を持つようになった。或は公立療養所の敷地内に病棟を建築して診療

を委託するようなものもあり、委託ベツトといった。

診療報酬のことであるが、由来公的結核療養所は無料のものであり、設立趣旨もそうであったのである。資産収入があつても特に入所を希望するものには若干の実費を徴集していたけれども主たる目的ではなかった。ところが戦後健康保険制度が普及し、生活保護法の医療給付も出来ると国立だからといつても従来のようにはいかなくなつた。それで厚生省の通達で、国立療養所の診療報酬は健康保険の点数の二割引即ち一点八円の計算で徴集することになった。まだこの時は一般世間では自由診療も大分行われていたから特に問題ではなかったが、漸次殆んど総べての医療が保険診療になつてしまつたと、どうも根柢が薄弱になつて来た。この二割引廃止は長い間問題にされた。実際上は入所患者は健保本人、或は生活保護法或は結核予防法の適用を受けていたので廃止されても実害は殆んどなく、あつても救済の法的措置はあつた筈だが、感情的に長期療養患者を刺戟するようであつた。ただ福祉事務所の方が支出予算が増すのでいい顔をしなかつた。又総選挙などには与野党共に票を失う可能性があるがあるので廃止に横槍を入れたこともあつた。

つい先年政府の一般会計から分離して国立病院特別会計の中に療養所も入れられるようになってやつとこの割引はなくなつた。

今日リハビリテーションといへば脳出血や交通外傷或は脊髄損傷などの機能回復の意味に使われるが、私達はこの語を終戦後間もなく結核患者の社会復帰のことに用いた。尤もこれよりもアフターケ

ア後保護といった方が多い。語源的にはニュアンスも異なるが殆んど混同していたように思う。

本を読むとイギリスの Papworth というところでは結核患者の村があつて、結核恢復期のものだけで社会を形成して相当うまくやっているようなことを書いてあつた。Colony という字も使われた。植民地ではなく、患者の集落の意味であつた。肺結核患者は癒つても呼吸不具 Respiratory Cripple なのである。従つて四肢などで運動器官や眼耳など感覚器官の不具と同様に取扱われて然るべきものであるといふのである。

しかし實際をいうとこの頃は健康なものでも正規の配給で生活出来なかつた時代で、買出しに田舎へ行つたり、闇物資を漁つたり、家庭菜園などを持ってやつと飢を凌いでいた時代である。それで療養所の敷地内で適宜耕作することになつたのであつて、私達は指導と称してただ見て歩くだけである。

当時私はアメリカの文献で「結核と糖尿病」というのを讀んだ記憶がある。甚だ不思議に思つた。食料が足りないで栄養がとれないから結核になり悪化するのだと考えていたから、糖尿病になる位の生活が出来るのにどうして結核になるのだろうか。昨今は珍しいものでなく、この二つが合併すると甚だ癒り難い。糖尿病は血液も甘いから結核菌もよく育つのであろう。

国有財産である療養所の構内敷地で耕作する権利が誰にあるのか知らない。又権利があるとしてもそれを誰が許可するのか認可する

のかそんなことは分らなかつた。従業員も争つてやっていたのである。殊に後の人事院規則でいえば行政職(二)に当るつまり平たくいえば小使用務員のような業務の人々はこれが一つの職場の魅力であつた。專業農家では供出を義務づけられていたのにそれも免除されてゐるわけである。こんなことを患者にやらしては作業療法と稱した。

もう少し気の利くものは蛋白質として豚や山羊を飼うこともやつた。飼料に残飯も用いられた。食うものが足りないのに残飯は可笑しいが、重症患者や手術直後の人には残すものもあつた。一体残飯の所有権は誰にあるかという法的根拠も裁判の判例もハッキリしないそうである。患者側は支給された以上自分達のものだといつた。事務長などの見解では食べれば当然患者のものだが、残せば経営主体即ち国のものだといふ。残飯を養豚業者等に払下げた場合の代金をどうするかは誰も分らず侃々諤々の議論をした。

尤もこの辺のトラブルは別に前からあつた。敗戦直後には患者にも酒や煙草が配給された。ところが療養規則で患者は飲むことは出来ない。公定価格であるからこれを買ひ占めて闇料理店等に流せば利中は大きい。これを着服していた事務長や経理事務員があつた。その監督責任を問われて辞職を迫られた院長もあつた。

作業療法は季節に左右される農耕は本当は向かない。そして食料事情も多少落着くと簡単な印刷や写真器の組立てなど工場の下受けのようなことをするようになった。療法というより少しでも金を得

ることの方が主眼であったかも知れない。

しかしよく考えて見ると社会が保証して療養生活をしているものが金儲けするのも変な話である。例えば屢々咯血するので絶対安静の状態にある患者でも新聞やラジオ放送で株式市況を勉強して見舞に来る家族に売買を指示して儲けたものもある。これは取締るべき筋合でもないし、取締る方法もない。けれども前記のような金稼ぎはどうかと思う。でもこの頃はお互にそんなこともいって居れなかった。

戦前でも診断のための検査は追々と重要な仕事となっていた。科学が根拠となる以上当然のことである。が検査室のラボラントは全く簡単なことしか出来ず、試験管洗位が本務であった。臨床検査は医者が自らやったのである。所謂ムンテラの如きは年功を経てから自ら会得するものであって、大学の教室や大病院で修業することは検査をすることにあつたかも知れない。又指導して呉れる教授や先輩に対する御礼奉公でもあつた。

戦後アメリカ流儀が輸入されると大分風向きが変わつて来た。新しい検査法の開拓などは医者がするのだが、日常 Routine の検査は検査技師がやるようになった。この過渡期がこの時代であつたともいえる。

医者自身が面倒臭いので作業療法の一環として恢復期患者に教えて検尿や検尿を実施させた。決して悪い意味ばかりではなかつた。結核は発病する年令が丁度将来身を立てるべき技術や信用を培う時

であつた筈である。従つて職能技術といふべきものの持合せがないのが普通である。特に若くて志願して兵隊に入つたり、学業の中途で兵役に召されたものもあつた。職業補導することも療養所の任務の一つであつたと考えてもいい。事実こうして臨床検査をやつている内に実績を作り、衛生検査技師法施行時に既得権として割に簡単に資格を得て社会に巣立つたものも決して少くはない。

世の中の趨勢は移り変つて労働者の権利が大きく認められるようになり労働基準法も出来、組合も結成することが常識になつた。これに効つたような形で日本患者生活擁護同盟（略して日患或は単に同盟といつた）が出来た。労働組合や従業員組合のような法的根拠は無論ないが、療養患者の意見を代表する任意団体とすれば全くこれを否定することも出来ない。が誰が許可したわけでもないのに勝手に部屋を占領して看板を出して事務室にするようでは厳密には国有財産の不法占拠である。実際には私達の方が負けてこんなものが出来てしまつた。そして横の連絡を取り合つて現実には組合活動のようなことをして機関紙などを発行していた。

私は施設の長として従業員組合と団体交渉に当るのみならず、これを談判しなければならなかつた。平素はそれ程でもないのだが、組合が春斗などをやる如く中央からの指示があつて、何かと問題があるとそれに引掛けて強硬な態度に出るのである。変な左翼斗士もどきのオルグが来るとナカナカのものである。口先だけであろうがハンストをやりにかねないような口吻でもある。相当に平衡神経を揺

さぶられる。

彼等は彼等でコッチの頭に来るような言掛りをつける。日韓条約を強行締結する自民党政権の手先や犬のようなものだ私達を罵るのである。日韓条約そのものを議論するならば私達にも私達の意見があつて必ずしも政府のやり方に賛成ではない。がそれと現在の療養所の在り方と何の関係があるというのか。

彼等の主張の底に流れるものは何となく理解することは出来た。私も彼等の境遇にあつたならば同じような思想を持ったであろう。でも例えば新に病棟を整備してそこへ移るようになって、これは結核対策の縮小に繋るといつて反対するのである。療養期間が長いから自分のベットに一種既得の居住権のような感情があつたことも解らんでもない。でもこう一つ一つについて抵抗を示されたのでは仕事にならない。彼等に頑張られる間は本来の診療そのものがストップしてしまふのである。

長い目で見ればそれはそれでよかつたとも思う。私達が施設長会議で発言したり、或は厚生省本省や地方医務局（当時は医務局出張所といった）で意見具申する時に彼等の存在の蔭に後楯になつたことは否定出来ない。

結核による死亡者数が戦前の半数になつたのは昭和二十七年であつた。そしてその後もますます減少して今はもう直接死因としてはランクに上らない位になつた。今昔の感に堪えないものがある。

結核療養所は他の医療機関に転換しようとしている。一般病院に

なつたものもあり、リハビリテーション施設になつたもの、なろうとしてゐるものもある。筋委縮症など難病の收容施設に変わらうとしているものもある。ただ医療機関としての使命は捨て切れないものがある。それは社会の要求がそうさせるということもあるが、従業員の生活擁護も又忽せには出来ない。

終戦直後に生活困窮の嵐が吹いた時気の利くものは闇屋などになつて職場を去つたであろう。が見方によればそういう能力のなかつたものであるが、一方から見れば職務に忠実なものは貧乏しながらも噛りついていたのである。その後も命ぜられるままに仕事をして来た人間である。これを放り出すことは出来ない。ただその年令層もようやく民間会社等ならば定年退職の年金に近付きつつある。これをどうするかは世の中が決めるであろう。

私達のような結核を相手に生涯の大半を終つた者は一般病の世界に入ろうとしてもナカナカうまくいかない。兎もすれば胸部疾患のことをいいたくなる。

結核周辺の疾患というようなことも問題にされた。胸部X線写真に異常な所見があればそれは結核であると考えたのは昔のことであつた。そうでないものも沢山出て来た。現在では肺癌が一番重要である。が肺癌は治癒即ち手術可能な状態で診断決定出来ることはむしろ稀である。将来の問題であろう。

塵肺特に珪肺もあつた。これは結核を合併する場合が多かつたしもう新な発生は殆んどない。労災保険法による生活保証のために肺

機能検査を行って必要な書類を作製することだけが医者の仕事であって治癒的興味は全くない。

軽いものには非定型性肺炎 Atypical Pneumonia、ウイルス性肺炎などもあった。放置すれば癒るのだから結核との鑑別診断だけが意味があった。

ヒストプラスモシス、トキソプラスモシスなどもあった。前者は我が国では聞いたことがない。後者は若干あるようだが原因治療などは全く未開拓というべきである。

ハンマン、リッチ症候群などは最初話を聞いたときはビックリしたが、次々に発表されるものには何だか分らんものもこの範疇に入れているようである。膠原病だともいう。サルコイドーシスに至ってはX線像で見えるだけで何をしていたのかサッパリ分らない。

一体この種のもものはX線写真だけ見ても結局は空論に過ぎないのだから生検 Biopsyで組織学的に確めるに如くはないという。

直接に標本採取するのは肋膜を突き破ったり、血液を出したり、シヨックを起したりするから面白くない。それで気管内麻酔を行って開胸して肺の一部を切除すればよいとする。診断だけのためにこうまでするのもどうかと思う。存外日常生活に大した支障のない肺の病変というものもあるものらしい。

私達はこんなことをしている間に年をとってしまった。決して無意義であったとは思わなければいけれども今後は若い人の智識に頼って生きていかなければならないであろう。

先日某都立病院副院長を定年停職して二三の病院の囑託をしている友人に電車の中で遇った。

「俺達は医者でもなければこんな給料は貰えないな」

「本当にそうだな、お互に籤でも医者になってよかったな」

期せずして意見が一致した。私は医者が好きで医学校に入ったのではない。生涯学校の教師で貧乏した父が身につまされて強く薦めるので、親のいうことは少しは聞いてみるかと入学試験を受けたら幸にパスしたので、そのままズルズル医者になっただけである。でも今にして思えば他の道へ進んだら今頃何をしていたらうかと考えるところでよかったと思う。

本文は書き始めたらいよいよ脱線したり、話が前後したりして変なものになってしまった。結核臨床の実験にあまり機会のないであろう今日、若い国手諸君に若干の参考となるものがあれば望外の幸である。

なお本文の内容には誤も多いかも知れない。私はここ十年近く医学の勉強らしいものを全くやっていないので、過去の経験の資料をもつと整頓して良かったのであるが、逸散したものもあり、保存してある筈のものも何処に蔵ったか分らず、記憶を辿って思い出すままに書いたからであって、気付かれた向こうから叱正を得たいと期待している。いかなれば内輪の会報であるから会員諸賢の海容を得られるものと信じている。

アローハ

つ　つ　み

今ミッドウェー島上空を通過したとの機内アナウンスに煙草をくゆらし貧乏ゆすりをして無聊をかこっていた世和木先生は窓から下界を眺めた。空も海も抜ける様なその青さに目をみ張った。その中を無数の白或は白銀色の雲があたかも千切られた綿の様にゆっくりゆっくり流れていき、島は濃緑色でその周辺はエメラルドグリーンに輝いて見えた。素晴らしい色と明るさである。かつて宇宙飛行士のガガーリン氏だか「地球は青かった」との台詞セリフがあったが先生は此の言葉には偽りはないなあと思った。

世和木先生はドクターとなってもう二十年になる。頭のとっぺんは少々淋しくなりかけていて地肌が透けて見える。この間勤務医時代を含めて三日以上の連休をとった事がなかったが、今度やっと六日間の休暇をとってハワイで過す事にしたのだ。先生は今、そのいきさつを想い出してみた。

「俺とこの夏休みはいつもの様に三日間だよ。今回は五島列島の公害のないきれいな海でボート遊びとか、魚釣りでもして過す積りだもう五島の友人にOKをとっているよ。どうだい、今回は仲々いいプランだろう」と自慢顔で家族に告げたものだ。

「パパにしては割かしいかしたプランね」と家族もこの案には大賛

成であった。

ところがだ。翌日はもう状況が変わってしまったのである。娘で高校生ハイスクールの理由が「パパ、五島行きゴトウの飛行機の切符取れなかったわよ、二、三ヶ月前から予約してないと駄目なんですって。だからハワイにしちゃった。ハワイ行きの方が簡単なのよ。それに中学の時の英語の古山先生が丁度ハワイ大学に研修に行ってるし会い度いわ。いいでしょう。ネーパパ」と媚びる様な声で云った。

「娘もいつの間にか大人になりおったなあー子猫が甘えて膝元にすり寄ってくる様なあの態度は……」と我が娘の媚態となると一寸気味悪い感じがする。

先生は「駄目駄目、俺には患者があるんだよ。取り消せ」とむきになって大声でどなった。妻の昌子が直ぐ横から口を入れた。

「あなあた」先生はこの呼び声には何時もドキッとさせられるのである。(何かしら弱みを持つ男とは、大体こんなものであろう)

「あなたは直ぐ患者さんの事をお考えになる。それは正しい事です。わかります。しかし此処は無医村ではないでしょう。沢山の先生方も居られるしそれに病院だってあります。他の先生がお休みになる時、あなたがお仕事なさればいいんじゃないの。看護婦さんにだつて一週間ぐらいの休暇は上げなくちゃあ」

由理が「本当にそうよ、私だって保険書き手伝ってるんだから、れっきとした従業員よ。現在は週休二日制の世の中でしょ。五月の連休だつてうち休んでないわ。何さ一週間ぐらいケチケチして……」

このうって変った娘の態度は一体何たる事ぞよ。昌子が又「あなたは日曜日ごとに下手なゴルフに凝りもせずお出掛けになるし、それに医師会だ医師会だと夜はチョコチョコお出ましでお楽しみがあるようですよ。この前もクラブ「ドリアン」のマッチ箱が机の上にあつたし、バー「マンゴー」の何とか光子さんの名刺が落ちていましたね」先生は行きつけバーの好意をもっているマダムである光子の名前が出てきたのに少からず狼狽してしまつた。この様な「ドキリ」は特に心臓に悪い。

「今度の由理の案いいでしょう。あなたのお頭ヅムだつて白毛が大分増えたし、行かれる時に行くべきですよ」人が気にしている事や嫌な事を取りまけてよくもべらべら喋べる女達だ。しかし、考えてみると、彼女達が云っている事は間違つてはいない。

ここでだ。彼女達の願いを聞いて点数を稼いでおかないと夜の医師会にはもう出れなくなる。逆つてはまずい事になると先生は判断し「ちゃ、いいでしょう」となつたのである。

GNP世界第二位、PCB、水銀たれ流し第一位の世界に冠たるわが日本を脱出した今、先生は窓外の素晴らしく明るい青さを眺めた時、もう患者のことも忘れ、俺は自由の身だ。彼女達の言に従つたのは先ず先ず賢明であつたなあ。と真底から思う様になつていた。先生は突然昌子に股をつねられ我にかえつた。

「あなた、鼻毛なんか抜かないで下さいよ、見ともないわ」先生はあわててズボンにくつついている数本の赤い鼻毛を払いのけなが

ら照れくさそうに「オホン」と咳払いをし、週間マンガを膝の上にひろげたが、先生は「あゝ、俺はここでも自由の身ではなかつたなあ」と又思うのだった。我が家のウーマンリブに縮ちこまつているこの姿。

世和木先生よ、も少しシャンとせにや駄目じゃんかよオ

羽田を立ち約七時間でホノルル国際空港に着いた。他のツーリスト達と連れだち家族を引きつれてロビーを出ると艶やかなムーミーを着たハワイ美人の娘さんが微笑みかけ「アローハ」と挨拶され首にカーネーションのレイをかけて頬べたにキスしてくれた。その唇は冷たく潤つていて頬べたがぬらされている様な心地よい感触が暫く続いた。先生も「アローハ・マハロ」（機内で此の二つの言葉を覚えた。今日は有難う）と答えとても嬉しそうだった。

「パパの目尻大分やに下つていたわ、あんな垂れ目になつたの初めて見ましたよ」と昌子に冷やかされて照れかくしに鼻柱をこすりながら「それでもないよ」と答えた。何と云われようと先生は兎に角上気嫌なのである。

翌日昌子と由理はハワイ大学に出掛けて行つた。先生は一人でホテルに近いクヒオ通りに出て洋服屋に立ち寄り赤と紫の花模様の派手なアロハを買つた。店の女主人に

「旦那さんお目が高いね、これ柄がよくてきれい。よく似合います」とお世辞を云われて直ぐその気になる単純な先生は有丁天になって鏡の前に立つたが、成程、店の小母さんが云うように確かに似合っ

ている。ちょっといかす格好じゃん。と思うのだった。

澄み渡った青い空の下、強烈な日指しを浴びながら道行く人達は、その空に合う様なパーッとした明るい色と模様のもう、或はアロハを着ているので先生も派手なアロハを着て歩くのには何の抵抗を感じなかった。ワイキキビーチ沿いを走るカラカウア通りに出てそのつき当りにあるカピオラニ公園で行われるフラダンスショーを見物に行ったのである。二十分も歩いた様に思ったが汗をかくことはなかった。予想した暑さは全然感じない。これは空気が乾燥しているせいであろう。

よく写真で見るパリのカンカン踊りの踊り子達の裾を大きく広げたスカートにも似たモンキーポッドの木や枝を斜めに下げ、やゝくたびれた様な格好のオーストラリア松、背高ノッポの椰子の木等があちこちにあるが、その木陰にたゝずむと、あたかも冷房された部屋に居るかのように冷んやりとするのが不思議であった。この公園は全体に芝がしかれ所々に鮮やかな黄色或はピンクの花を一杯につけている木もあった。会場にはもう可成りの人垣が出来ていたが、要領のよい先生はうまいことかぶりつきの芝の上に坐り込んだ。待つこと数分、司会者が何やら早口でペラペラと喋った。時々見物客がドッと笑う。きつと面白い事を喋っているのだから先生には全然わからない。でもそこは少し格好をつけ、わかった様な顔をして回りのアメリカ人達より一駒づれて小さく笑った。間もなく例のギター。ウクレレのハワイアンメロディーののって、椰子の葉っぱの

カートをつけ、首にきれいなレイをかけた十数人のフラダンスが始まったが、彼女達の手はしなやかに動き、腰の方ときたらまことに器用な動き方をする。ゆるやかに大きく動いていたヒップの動きが、急にそのテンポを速めその動きたるやすさまじいまでである。その動きにつれて椰子の葉のスカートがバサバサと激しい音を立てて振るえた。しかもその音がちゃんとリズムに乗っているのはさすがである。

先生は自分の胸に彼女達のヒップの運動によって起る「つむじ風」のような風圧さえ感じるのだった。先生は彼女達の葉っぱのスカートの紐がち切れ、ついにはそれがズッコケ落ちはしないかとの心配と期待とが心の中で交錯していたが、残念ながらハプニングは起らなかった。ただダンスの後、彼女達が頭に飾っていたハイビスカスの真赤な花が一輪落ちていただけであった。

ショーが終って先生はワイキキの浜辺に足を向けたが、本場ものはさすがに違うわいとフラショーでの胸の高まりが仲々おさまらなかつた。このワイキキビーチは白褐色の砂浜で距離は想像した程長くはなかつたが砂浜にはゴミがなく非常によく管理されているのに感心した。

浜辺のあちこちには甲羅干しのアメリカの人達であろうが、気の毒な程に太った小母さんや頭が禿げ上ってビヤ樽のような腹をした小父さん達、或はアッと息をのむような素晴らしいグラマーの娘さん達や胸毛の若い衆がおもいおもいに甲羅を干していた。ブラブラと

砂浜を歩くだけでも目の保養になる。

先生も早速水着に着がえたが、湯タンポのような哀れな胸が少々恥しかった。水の中に入って行ったが、ずうっと遠浅になっている様だ。

大きな波が来た。先生は波をかぶり、たわいなくでんぐり返ってしたたか海水を飲んだが、その時柔かい人の肌に触れたのを感じた。顔を上げて見ると「うーん」とうなり度くなる様な小麦色に日焼けしたグラマーでブロンドの娘さんではないか。彼女のその豊かに熟した乳房はブラジャーからたちまちこぼれそうにみえた。小麦色の女性は健康的だし先生は以前より大いに魅力を感じていた。

先生は「ご免なさい」とあわてて云って唾をゴクリと飲んだ。

彼女は「あたしもご免なさい」と云って微笑みかけた。そばかすはあるが可愛いくて感じのいい子である。世和木先生も、こういう相手が現れると、どうして仲々強気になってくる様である。

二人は渚に腰を下ろし、二人の間に一寸沈黙の時間が流れた。リズムカルに押し寄せる波が二人の足を洗いその度に白い砂がキラキラ光りながら足元で踊った。

先生は「あなたは学生さんですか」と話しかけた。

「え、シカゴからハワイ大学に東洋文化の研究に来ています。あなたはどこから？」

「私は日本、東京から来ました。東京知ってますか？」

「勿論知ってますわ」

「東京で一番山と川の美しい所、西多摩郡から来ました」

「ニーシタマゲンマーチね」こゝで彼女は首をかしげ考える様なし草をしたが、そのポーズが可愛いかった。

「その町知らないわ。でも日本には凄く興味があります」

ところで先生は彼女の水着が今にもズリ落ちそうに下っているのが無性に気になりだした。尻のスパルテの上三分の一があらわになっていて、前の方はかるうじて恥しの丘でひっかかっている様にみえるのである。

「若しズリ落ちたら彼女はあわてるだろうな。俺だってそりゃあ困るよな。しかし俺は紳士だ。その時、何も知っちゃいないんだよ云う顔をすべきだな。どうしてああ下ったんだろう。多分パンツの中に砂がうんとこたまって、その重みでズリ下ったのだろうな」と先生は直ぐ余計な事を考えるのだった。

世和木先生も年とったせい最近全然ロマンチックじゃないんだよなあ。

彼女は「サーフィンやっている沖の方まで泳ぎませんか」と云ったが、先生は首をすくめて

「私、ハンマー。日本語で金鎚、わかる？」

「ハンマー？……オーわかった。それは危いですね」彼女は気の毒そうな目で先生を見た。そして彼女は微笑みながら

「さようなら」と云って沖の方へ泳いで行った。

先生は彼女の頭が段々小さくなっていくのを見ながら「もうあの娘

と合うこともあるまい。俺があと十年も若けりゃなあ、彼女を何とかものにしてみせるのに」と実力もないくせに思うのだった。

人間は自分に都合のよい勝手なそして自由な想像をする事が出来る。それはまことに楽しい事である。

日がかげり始めて水平線上の雲が赤く染まり、ダイヤモンドヘッドが淡く黒い影を海に落している。美しい景色だ。

先生は沖に向けて「アローハ」と思い切り大きな声でさげんだ。

(完)

『 訃 報 』

本医師会員、青梅総合病院、副院長 大橋忠敏先生の御母堂、大橋章殿には、昭和四十八年七月十一日午前三時三十分、七十四才にて、又、百瀬政雄先生、御母堂 百瀬よしゑ殿には、昭和四十八年八月二十日午後七時二十三分、九十二才の御高齢を以て、黄泉の客となられました。斯所に慎んで哀悼の意を表します。

長 寿 入 門 (1)

去る九月三日付け夕刊各紙に、世界一の長生き男、ソ連・アゼルバイジャン共和国バルザフ村のシラリ・ミスリモフ氏が、九月二日ついに百六十八才で大往生を遂げたと報道している。

我々も百才以上は無理としても、せめてミスリモフ氏の半分の八十四才までを最低線として、健康で長生きし、人生をエンジョイしようではありませんか。そう思ったので、表題のタイトルで、長寿に関する文献を連載でお知らせすることにしました。少しでも参考になって、一日でも長生きされんことを祈る次第。第一回は、驚嘆すべきこのミスリモフ老の長生きの秘けつを各紙より渉録。

「ミスリモフさんによると、長寿の秘けつは、肉体労働と新鮮な山の空気、適度な食事、にあるといい、酒もたばこもたしなまず、食事はもっぱら乳製品と果物、野菜類だったという(朝日)」「(三つの秘けつの他に)今度の病気にかかるまでは、毎朝リング園で日の出を拝み、羊を連れて散歩したという(読売)」「健康の秘けつは、澄んだ空気、美しい自然の水、絶えず働くこと、節度ある食事」とコーカサス流の養生訓を語っていた。(毎日)」

(ひじり)



T M M A 本部

ドライブ会に参加して

速 水 完 一

隧道を出たら、渋滞があった。

去る八月十八日、T M M A 本部主催のドライブ会に、西多摩代表の形で参加した私の車は、土曜日の午前の診療もそこそこに、妻と娘の参加もあり、勇躍好天気に恵まれ青梅を出発した。

八王子ICより中央高速に入る。集合地は談合坂サービリエリア、車の流れも少く、スピードアップも順調、此の分なら予定時間には充分間に合い、昼食をとる事も出来る。と安心したのも束の間で、書出しの通りの渋滞に出合った。原因は事故にあらず、工事中の為二車線が一車線に狭まる為。イライラの三〇分を費し、時間ギリギリに到着した。

今回の催しは、会員の間から「ラリー許りでなく、家族ぐるみで参加出来るドライブ会もやって貰いたい。」と云う要望が起った為

で、始めての計画故、何台来るか見当もつかず、さぞ、多数の車が列をなしているだろうと期待して行つたのだが、今日此処に集るもの僅かに五台、あと二台で全員集合との事、会長も持病の胆石症の突発で参加出来ず、残念であった。其の二台が定刻二時を過ぎても到着しない、時間も過ぎる許りで一応此処は出発、第二集合地迄進み、改めて集合打合せをする事になり出発しようとした処に到着した。其の俣先導と殿りの車のみ決め、後は各自隊列を組み、定刻三〇分遅れで談合坂サービリエリアを出発した。

参加台数は少いが、ドライブには手頃な数、道は一本道、之ならば間違いなくついて行けると思われた。三〇分高速路を快調に進み終点の河口湖迄来て国道一三七号線に出た。此処で私は形の目立つ外車について六号車となり進んだが、始めの交差点で、案内図の説明を聞かなかつた私達は、河口湖を示す導標につれて前車に続いて右折して、指定コースの直進に別れてしまったのに気付かなかつた。

河口湖大橋を渡り、一三七号と別れて左折、細いカーブの多い湖の北岸の道を進んだ。窓の右側に或は正面に見る富士の姿は、頂先裾を長く引いたベールの様な笠雲に隠し、逆光に黒々と迫り、何時もの美しさは感じられなかった。やがて西湖の北岸に到り、第二集合地と思われる駐車場に、先導車の姿を探したが、知らぬ間に先行していた我々に見つけられる筈もなく、次々と探しながら西湖を外れてしまった。此処で異常に気付いたが其の俣進み、一三九号線に出て更に右折して本栖湖の辺り迄達してやっと停車、迷子の三台で

始めて談合、コースを外れ先行した事を確認し、暫らく待つ事になった。待つ事久し、仲々御目当ての車は来ない。向うでも待っているらしいが連絡する方法もない。結局殿りの福神の若者達を残し、外車と二台で先行する事になり、出発した。

本栖湖より下部シモベに抜ける道は、地図にも悪路とされている物凄い道と聞いていたが、意外に開け、舗装も進み、唯中間の三分の一の峠道が悪路の面影を残し、カーブの多い凸凹の坂道で、無遠慮に向って来るダンプに何回か脅かされた。周りの緑は秋になれば見事な紅葉と思われる程であったが、充分観賞する余裕はなかった。

下部に下り道は平坦、更に五二号線に出て一気に身延に達した。総門を入り門前町の賑いを抜け、山門を廻り更に急坂にかかる、其の左側に並宿坊の終りに近く、目指す麓坊の標柱を見付けて右折し、降る様な蝉しぐれの中を静かな坊の前庭に到達、玄関前の柿の木の下に車を休めた。談合坂サービシアより一〇五軒、所要時間二時間半、此れは予定通りであった。

先着一台、家族ぐるみで朝から東京を出て来たとか「何人来るのか」と坊の奥さんに聞かれ弱っていたらしいが、私も知る由もなく唯七台で来る事を告げるのみ。暫らくして電話連絡あり、やっと人数が確認され、仕出しの注文を減らしている様であった。

五〇分位に全員到着、始めて先行してしまつた経緯イキサツを知らされたが、互に無事の到着を喜び合った。人数の割合で男女の風呂も決まり、一同汗を流して総勢二六名が会食の席についた。此の坊は役員

の方が、当山の門跡と知り合いで、特別の取り計いで貸切りとなつて居り、料理も特別の物であったが、サービスは数人の中学生らしい僧侶の卵がチョロチョロするだけで、後はセルフサービスの形であつた。

先ず会長代理の挨拶、次いで各自簡単な自己紹介の後宴に入り、いろいろ話が弾んだ。役員の話では、「今日のドライブは、唯車を運んだと云うだけで真のドライブとは云えない。」との御託宣で、道がすっかり良くなり、我々の苦勞した峠越えの悪路も物の数でなく、所謂山嶽ドライブの味は求め得なかつたとの事らしい。又「ハプニングがあつた方が思い出に残る」と云う事で、昨年本部役員を招いて行われた、西多摩医師会のドライブの話も出た。かくして般若湯の尽きると共に、隠し芸こそ出なかつたが、和氣アイアイの宴もお開きになり、各自の部屋に戻つた。

霊地の夜は静かに更け、庭の車の上に落ちる柿の実の音のみ響き、知らず知らずの内に夢路に入った。

翌朝は五時起床、話の種子に俄信者となり、身延山の朝の勤行の場に連なつた。百名を越す僧侶の読経、之に和する信者の声、仲々盛大であつたが、眼の前で若い僧が、野球のバットの様な撓ハグで叩く各二米の大太鼓の音に閉口、行半ばにして堂を出た。

坊に帰り朝食、食後福引等あり、帰りのコースの説明もあり、現地解散となる。玄関先で記念撮影の後、別れの挨拶をかわし、各自思い思いのコースに散つて、楽しかつた会を終つた。

今回のドライブは、初めての計画なので何人集めるのか判らず、本部では百名を越すのではないかと、とも思い、多ければ二回に分けて実施するつもりだったそうだが、実際は二六名殆ど役員関係で、意外に少なかったが、返って和やかな気分であらぬ同志が付合えて、親しい会であった。次回はより多くの方々の参加を得て、盛大に行われる事を祈り、此の記を終ります。

集い来て

身延の山に

せみしぐれ



ニュース

西多摩医師会

創立六十周年式典準備委員会報告

(総務)

準備委員会は会報十五号に報告以後第二回(七月十二日)、第三回(八月十日)、第四回(八月二十九日)と会合を重ねた結果従業員の表彰、高令医師会々員の表彰、役員功労者の表彰等の選定を実施すると共に全会員に配布する記念品及表彰者に対する記念品の選定も殆んど完了し、井上富美準備委員長より山田総務部長に報告があり今後は式典関係の準備に入ることとなった。

高令医師会々員は四名、役員功労者は本会理事等を十年以上務めた者、従業員は一般診療機関にあっては五年以上、十年以上、十五年以上、二十年以上の勤続者とし、一方官公立病院の従業員は十五年以上、二十年以上の勤続者と表彰することに決定す。其の表彰者の数は理事関係十四名、一般診療所関係一四〇名、官公立病院関係七十七名の多きに達し、万端漏なきよう着々と準備が進められている。

尚、式典開催日は

十一月十七日 午後二時より五時まで

ブリヂストンタイヤ奥多摩園

に於て実行されることに決定し、山田総務部長より式典準備委員会に正式に通告がなされた。

式典に関しお気付きの点がありましたら何んなりとも総務部に御連絡下さるようお願い致します。

休祭日診療の契約に関して 四八、八、十七

七月一日より東京都医師会指導により都内全域にわたって実施された休祭日診療は、西多摩医師会管内では会報十五号でお知らせした如く漸定的に青梅市、福生市、秋川市、羽村町、瑞穂町の各医療機関及び救急病院の協力でスタートし、八月より町立奥多摩病院の参加を得て一応体制が整った。

然しながら西多摩医師会と東京都医師会との間で、休祭日診療に関する契約が実施されて居らぬため本件に関して実施医療機関の同意を必要とし、これに就て八月十七日夜医師会館に栗原副会長、山田総務部長、福島福祉部長、箱崎公報部長と実施医療機関の東、平林、目白第二病院事務長、大橋市立総合病院副院長、宮川大聖病院々長、奥多摩病院事務長、秋山、清水各先生方が参集され、福島理事より本件に関して説明し、種々協議したる処各医療機関共に東京都医師会案に対し不満があり、各自自治体と契約の上実施することが西多摩地区としては望ましいと云う結論となり、今後各地区会の意

見及び理事会の決定とを考えて、東京都医師会との契約は一応延期と決定す。今後休祭日診療に関しては十分なる研究をする様希望意見がのべられた。

東部地区区会報告

四八、八、二七

東部地区会が山田地区会々長の招集で八月二七日午後七時半より福生病院付属看護婦養成所講堂に於て多数の会員参集の上次の事項に関して協議がなされた。

休祭日診療について

七月一日より東京都医師会指導の下に実施された休祭日診療に関して、先きに実施された週二日制及び休祭日委員会からの諮問事項もあって、高水会長も出席し、本件に関して都医師会発足当初の問題点及び八月二五日に開催された三多摩医師会々長連絡会の様子等の説明があり、会員各自意見が述べられた結果地区医会としては、東京都医師会案とは別に現在各地区の医療機関が実施している休祭日の診療体系を維持し、出来るだけ速かに各自治体と本件に関して契約を結び、地区住民の福祉に貢献すること出席者全員了承の上承認決定す。東京都医師会との契約は今回は見送ることにし、この協議事項を理事会に山田地区会長より説明することとして、散会した。

定例理事会報告

四八、八、二八

出席者 高水、栗原、後藤正副会長。山田、福島、箱崎、速水
江本、矢ヶ崎、藤野、内山、近藤、瀬戸岡、大河原、森、大橋、川崎各理事。坂本、菱山各監事。

一、社保及び国保担当理事々務連絡会報告

箱崎理事

八月九日東京都医師会にて開催され箱崎理事が出席し、左の如く報告があり全員了承す。

イ 国保請求明細書の提出が半年も遅延してものがあり、遅延理由の不明なものに対しては都国保指導部で指導することがある。

又弱小国保組合では解散の場合も出て来るので、請求書提出を出来る丈当月にする様注意があった。

ロ 各地区医師会の国保指導整備会では十分な整備をしているが、それでもなお且つ病名漏れ等があつて基金に提出されても各医療機関に差し戻されるので、病名漏れについては、嚴重に注意するよう要望があった。

二、新しい医療体系に就て

箱崎理事

会報十五号参照のこと

三、老人検診について

箱崎理事

東京都医師会と地区医師会との本件に関して契約することとなり、休祭日委員会席上各地区医会の意見を聴取することに決定し、東部

医会は都医師会との契約は実施せず各自治体との契約履行を早急に実施するように努力し、休祭日診療体系は各市町村の医療機関が現在実施している状態のまますることに決定した。又南部医会も同様の結論に達した。当医師会としては各地区会の意見に従って東京都医師会との契約は実施せず現在各市町村の医療機関が実施している休祭日の診療体系とすることとし議論が出たるも一応全員了承の上決定する。

五、週休二日、休祭日委員会報告

福島理事

休祭日に各医療機関に来る患者の大半は、真の急患でなく、都が実施して以来その傾向が強くなる各医療機関の犠牲の上に成立っている。今後の方針に関して各地区会の協議が必要だと云う結論であったと報告され全員了承す。

六、三多摩地区医師会々長及び代議員連絡会報告

瀬戸岡理事

八月二五日奥多摩河鹿園にて当地区が当番で左記事項等に関して意見の交換がなされた。

イ 休祭日診療について

ロ 外国人国保について

七、六十周年記念式典について

山田理事

十一月十七日(土)午後二時より五時まで プリヂェスタントアイヤ奥多摩園に於て実施と決定す。式典準備委員会、記念誌編纂委員会も順調に事務を遂行中である。臨時会費徴収に関しては一任されたき旨報告し全員了承の上承認される。

八、新入会員

今村 巍 内科 慶応医学部卒

大井 美智江 産婦人科 東京女子医大卒

遠藤 三樹男 麻酔科 山口医大卒

右三氏入会届が福生病院より提出され全員万場一致をもって入会が承認された。

不当、疑問の査定、減点には
必ず再審請求を出そう。

毎月七日午後八時まで減点通知、注意書、減点レセプトの
コピー等を提出して下さい。

各部だより

「囲碁部」

夏の碁会

近年稀と云われる猛暑の連続した八月の最終日曜日、二十六日午後一時から、西多摩医師会館で、恒例の夏季囲碁大会を催しました。したたる汗ものかわ、盤上に熱戦を展開、各人四戦して、戦の幕を閉じ。終って、卓を囲み盃をあげて、戦跡を振りかえって歓談。和気あいあい、楽しい一日を打ち過しました。成績は左の通り。同じ勝数者は抽せんに依り左の順位となりました。○印家族従業員

- 優勝 甲斐三段(四勝)
- 二等 小林初段(四勝)
- 三等 栗原二級(三勝)
- 〇四等 久住一級(二勝)
- 五等 川崎三級(二勝)
- 六等 速水二段(一勝)
- 〇七等 大蔵五段(一勝)
- 八等 香西初段(一勝)
- 〇九等 近藤一級(一勝)

各人にタノシミを持っていただく為に、全勝者は次回から位一階上り、全敗者は希望により一級降等と、申し合せました。次回は四十九年二月十一日です。

「保険部」

(甲斐)

請求書注意事項

- 一、慢性気管支炎は、慢性疾患指導料の対象ではありません。
 - 二、口内処置は七点です。
 - 三、神経症にコメタシン併用は妥当ではありません。
 - 四、ノイビタ傾向使用は御一考下さい。
 - 五、衰弱著明の精神分裂病、アルコール嗜癖に精神療法算定は妥当ではありません。
 - 六、未熟児につき請求する場合、生下時体重、アプガール点数程度
の記述を備考欄に書く様指導願います。
 - 七、陣痛微弱、前期破水と傷病名のみ挙げて七日も十日も入院させることは妥当ではありません。
 - 八、尿一般検査
- ① 試験紙を使用して行う検査の場合、実性を目的とするものは(蛋白、糖を除く)尿一般検査四点に含まれます。

第50回 西医ゴルフコンペ

(昭48. 8. 23.(木)曇) 於霞ヶ関CCW-コース

RANK	NAME	Out	In	Gross	Hdcp	Net	N.Hdcp
1	波田野	52	51	103	36	67	29
2	宮地	48	49	97	20	77	18
3	工藤	52	45	97	20	77	
4	鶴田	48	51	99	22	77	
5	後藤	52	48	100	21	79	
6	丸茂	53	58	111	30	81	
7	東	53	52	105	24	81	
8	吉野	54	47	101	20	81	
9	平林	53	47	100	18	82	
10	豊泉	43	47	90	8	82	
11	大嶽	59	62	121	36	85	初参加
12	富永	51	52	103	18	85	
13	葉山	54	62	116	30	86	
14	斉藤	47	52	99	13	86	
15	矢ヶ崎	59	64	123	36	87	初参加
16	藤田	48	50	98	9	89	
17	内田	47	50	97	8	89	
18	堤	62	67	129	36	93	
19	杉本	71	61	132	36	96	初参加
20	川崎	77	86	163	36	127	初参加
オブザーバー	宮川(昭)	38	43	81	3	78	

「ゴルフ部」

② 蛋白、糖の定性を目的とするものは請求出来ません。
 九、入院時に初診料算定されているものに外来の初診料算定は御遠慮下さい。

編集会議余滴

於五日市 石舟閣

A では早速ですが、会報に対して何か御意見はありませんか。
B 私はね、半頁メモというのね、あれ気に入っています。あれ非常に勉強になりますね。

A あれは西村先生がお書きになっているんです。途中で一寸切れましたが、そういう御意見があれば続けるように先生にお願いしておきます。ただ無味乾燥ぢゃないかということで、大分遠慮されていましたが、そういう御意見があれば喜んで書いていただけないと思います。

B それから小泉先生の短歌、非常に喜んでるんです。

A そういう、良かったという御感想もお聞かせ願えると、書いてる人も張合いが出来て来ますから……。

C 会報がくると、先ず女房が見るんですよ。女房が見て、これは面白いから見ると私の所に持ってくるんです。それから私が酔眼もうろうとして読むんです。

D 当地に参りまして丸一年もたないんですが、川崎先生と杉本先生が私の所に参られました、会報のあの頃は二、三号目だったでしょうか、持って来られました。その時あそこになっていた看護婦さんが、四月から先生がおいでにならなかつたから、私達がこれを読ん

でいました。その当時川崎先生のドライブへのいざないというのがありましたね。あれは面白いから先生、また来たらは非見せて下さいと云われました。正直なところ、すみずみ迄は読んでいません。エロチカの随筆みたいのがありましたね。これは面白いと思って持って帰ったら、女房が、これは面白そうだなと子供の前で読み始めたら、だんだん雲行きが怪しくなつて、あゝこれはやゝめたといつて、やめたことがあります。僕は感心するのは、皆さんいろいろなことでお忙しいのに、よくあれだけの会報を作られると、若し何か書いてくれといわれたら、どうして断ろうかと考えているのが現状です。まして編集委員になつてくれといつて来られたらどうしようかと思つている位ですから、それを書かれる先生や、編集される先生は並大抵な事ではないと、その点敬意を表したいと思つます。

E 今、月報になっていますね。月報では余りにも頻回ではないかと思つます。せめて二月か三月に一回位にされて、頁数をふやして内容を充実された方が、もっとしばらくぶりて来たということでも熱心に読むんじゃないですか。

F 私の所に、県単位のものから、郡単位から市に至るもの、かなりの部数の医師会報が、余つているという意味でしょうが、くばつてもらつていますが、西多摩のような会報はどこにもございせん。皆本当に事務的な取次事項だけで、論説的なもの、或は時局問題の解説的なものが載つてるとしても非常に短い。西多摩は会

報であり同時に同人誌のようなにおいもあるし、又ユーモアなものも盛り込んでありますし、小冊子の割には結構よく出来ているんじゃないかと私は考えています。それからテーマを考えて、例えば公害の問題、海洋汚染とか、スモッグとかいろいろ委員会でも決めて書いてもらうことも一つの方法じゃないかと思ひます。

G 新聞などにいろいろ医者に対する抗議などが出ていますが、それに対して一般の人にどういう風に分らせるかというような記事、例えば医者は儲けすぎているというような見方に対しての解説の仕方というような一つのテーマについて、ベテランの先生に書いていただきたいですね。

H 談話室という欄を活用していただきたいと思ひます。今晚お話ししていただいているいろいろな会報に対する御意見なども、談話室の欄に書いていただけたらよいと思ひます。

I 生活にうるおいを持たせるといふ意味での会報でありたいですね。

J たまたま何カ月か前に、保険部の担当理事の先生が匿名で保険講習会の無為を痛烈に書かれた。これは一寸解釈に苦しむんですよ。社保の講習会は年一回しかありませんから、内容の濃いものと頼んで講師の先生にやってみてもらっているんですが、その内容の結果論から内容がつまらないとか、事務員ばかり出ているとか書いているんですね。たまたま編集委員であつて而も保険部の理事で。御本人に云えば、いやそんなつもりで書いたんじゃないと、一介の弁

明で済んちゃうんですね。然しこれが文章になって出るとすると、それに対する誤解は重大なことになる。前に書かれたように、ペンが暴力みたになつてしまふ。編集委員に対して恐る恐る批判するようになってしまふんだね。これはよくないと思ひます。

K 私としては会報に三つの点を希望したい。第一は会報を通じて、プライベートの面での横のつながりを持つということ。第二は共通の話題について、座談会を開くなりしてこれを会報に反映してもらいたいということ。第三に編集者は一般読者と違った姿勢でなければならぬ。然し方向性を持つてはいけないと思ひます。編集者はいゝ方向を持ちたいと思ひますが、我々からすれば正確な報道を主としてもらつて、一定の方向は持たせたくありません。

L 今までいろんな意見が出ましたが、会報の役割が一人一人の先生方に浸透してないんじゃないか、同時にいろんな議論が出て、ちかに活字になれば会報が活発な広報手段となるわけですが、こういうふうな飲んでの意見は活発なだけけど、それが会報にちかに反映しないということが一つの問題ではないかと思ひます。今保険部とか総務の方で原稿を出さないとかいうことは、会報と医師会の理事会との関係が整理されていないから、そういう問題が出てくると思ひます。僕の意見としては、会報は医師会の広報部の一つの活動ではあるけれど、別個の活動の場として、医師会全体として保証していただきたいと思ひます。ということは、そこにはどんなことを云つてもいいという言論の自由があくまでも保証されているということ。

先程保険部で、会報では違うことがあるということは、僕の一方的な考えですが、医師会なり保険部の中でやはり自由な発言が保証出来ないという逆の意味の裏付けではないかと思えます。そういう意味ではやはり、理事にもなっていない会員の声が会報に表現出来るという、いわば医師会の壁新聞としての役割りも欲しいと思えます。

書きたい人が書く、読みたくない人は読まなくていいが、読んだ人



はそれに対して反論を書くことが出来ることを保証していただきました。同時に医師会の広報部であるから、執行機関の宣伝の場として使っていくが、理事会での討論の赤裸々な姿の機関決定が表われないければならないと思えます。まとめてみますと、医師会の執行機関としての広報と同時に、医師会員であるけれど発言の場もないし、言えばつぶされるというアウトサイダー的な先生方の壁新聞としての発言の場という二つの役目を編集の方が、そういった立場で独立した立場でやってもらいたいと思えます。

A 時間もだいぶ超過しましたので、この辺で……。貴重な御意見をどしどし会報に反映してゆきたいと思えます。どうも有難うございました。

(出席者—敬称略)

高水会長 栗原正吾 小泉新策 瀬戸岡進 江口二三男 桂
木真 今川武 清水章三郎 吉沢行雄 近藤友好 葉山侃
植田稔 (以下編集委員) 川崎健一郎 杉本一 菱山正治
堤次雄 米山秀雄 平林信隆 野村有信 藤野是常 池田聖

(以上二十一名)

西多摩医師会報に対する

アンケートへの御解答

先月末より今月十五日迄に会員諸兄に御多忙中御解答を頂きましたアンケートの諸項に就き斯所に公表致し、御参考に供し度いと存じます。

先ず發送數二百、御解答を得たのは僅か五十四通、約四分の一に過ぎません。これに依つて断を下すのは、一寸早計とは存じますが、医師会報に対する諸兄の関心の薄さは、毎月、十万円以上の費用を此の小冊子の為に支払いするに足るものかどうかを一考する必要があると思われませんが如何でしょうか。

次に各項に涉り詳細を呈示致します。

一、存続の必要

有 47 無 6 どちらでもよい 1

二、読後感

面白い 39 面白くない 8 普通 7

三、内容の主体

論文 13 随筆 30 紀行 16 文芸 10

ニュース 29 其の他 3 意見なし 13

四、原稿の収集

投稿 38 依頼 29 指名 6

五、一番面白く読まれたもの

- ① 先進諸国の医療形態を探る 6
- ② 私の昭和史研究 4
- ③ 台湾旅行記 3
- ④ 対談 3
- ⑤ 其の他 8
- ⑥ 無解答 32

六、会報に対する御意見

- ① 現行を良とするもの 7
- ② 季刊又は隔月 5
- ③ 種々な会合を利用して投稿を得ること 4
- ④ 無解答 28
- ⑤ 其の他 10

アンケート

- ① 家族構成
- ② 趣味(所属団体名も)
- ③ 生活信条又は健康法
- ④ コレクション
- ⑤ 会報に対する御意見、御批判



上田 登代一

- ① 戸籍上の妻一人(一才年上)長男、日本歯大四年、長女、他家に嫁し孫保育園生。
- ② 旅行(弁当付き) 飼鳥、特にボタインコ類、馬鹿の鳥飼いと昔から云われてます。
- ③ (一)に女(二)に酒(三)に金、その為には早死しても悔いなし。時々散歩、食事に気を使う。
- ④ 写真(?)
- ⑤ 固いもの三分の一、軟かいもの三分の二の比率では如何でしょうか。



中村 武

- ① 母、妻、娘三人
- ② 麻雀、ゴルフ

後藤 伸

- ① 豚児二とその母親、計四。
- ② 恥づかしながら、ない。
- ③ 信条はない。健康の為時折ゴルフ。
- ④ これもない。執着を出来るだけ稀薄に止めるために。煩惱無限誓願断。
- ⑤ 原稿を送ってないことを、大変恥づかしく思っています。





小泉 新 策

① 四人（二夫婦）

② 一、美術刀剣会 二、考古学会

三、多摩郷土研究会 四、多摩読

書の会 五、秋川の文化と自然を

護る会 六、秋川猟友会

③ 何事も信念を以て行動する。己の

欲せざることを人に求めず。健康

法としては、公害の世に対処して

生き抜く為には、全智全能を集中

して有害を排し、確信なきものは

一切手にせず口にせず、美食の一

切を求めず自然と共に生きる。

④ 刀剣類は、兼光、吉光、祐定、広

光、忠光、経家、信国、助直等の

刀、その他、単槍、薙刀等、計四

十三口。画は渡辺華山、松村桂月

等。

⑤ 特に意見なし。



川 辺 晃

① 老夫婦。長男夫婦、中野区在住、

日大第三外科助手。次男夫婦、前

橋在住、群大第二外科助手。

② 相撲、鳥類、魚類を飼うこと。

盆栽を作ること。

③ 早寝早起。

④ 植木、刀剣。

⑤ 皆様の御努力によって、よい会報

が出来て感謝しております。

アンケートについてお願い

趣味その他についてのアンケートを既にお願ひしてありますが、本号から順次掲載させていただきますので、アンケートをお寄せいただいた先生方は「顔写真」免許証大のものを医師会事務所までお届け下さい。

まだアンケートを書かれていない方は是非お送り下さい。

編集後記

秋になると柿が赤くなり医者顔が青くなると昔から言われているが、最近はどうも一つ青くなるものがある……それは医療過誤による莫大なる請求額である。これは次来の悪いもので時期を問わずに突然やってくる颱風と同じで且つ何年もつづくから尚悪い。最近は医療行為を一種の契約として医者にかゝると言う傾向があるので秋の夜長をこの問題について考える必要がある。暇の時にゆつくりと今迄に歩いて来た道を振り返って反省し、これから先の道を見出すことも無駄ではあるまいと思う。ゲラを見ながら思いついた事を一言。

(矢ヶ崎)

来る日も来る日も不健康な人達「患者」との応接を業としているわたしにとっては、この会報は一服の清涼的な存在で、毎月楽しみにしている物の一つですが、皆さんはいかがですか？その「清涼剂的」という意味から言っても「ユーモアに富んだもの」、「さわやかふよふよふ」……ふんふん、毎日小さくかきあげて下さる、ありがとうございます。

その点今月は堤先生の「アローハ」があり、池田先生の「長寿入門」藤野先生の「ひと口咄」と全部出揃った感じがします。それとも一つ、われわれ編集委員にとって嬉しいことは、速水先生が初登場したことです。毎月必ず誰かがニューフェイスとして登場することが、会報の存続にとって如何に重要な意義を持っているかは、容易にご理解いただけると思います。未だ一度も投稿されていないかたがたは、どんな内容のものでも結構ですから、ぜひご投稿下さって「自分の書いたものが活字になる楽しみ」を素朴に、素直な気持ちで味わっていただきたいと思えます。

(川崎)

秋の兆も、そろそろ見え始め、彼岸花も色褪せ、老木にかゝった烏瓜が色付き始めた様です。毎年の事乍ら、年と共に、秋風が歯にしみ、秋の抜け毛がこと更に気になる様です。第十六号を御送りするに当たって、小泉先生の「先進諸国の医療形態を探る」及び岸田先生の「結核のアレコレ」も完了致し、斯所に両先生に深甚の謝意を捧げ度いと存じます。又、御投稿頂いた「つつみ」、速水完一、両氏に御礼を申し上げます。

(藤野)



ワールドパーク……は 先生方の憩いの場所です

◆ 雄大な白河高原の一角，温泉の湧き出づる高級別荘地，これがワールドパークです。

所在地 / 福島県西白河郡西郷村大字鶴生字シナシ 1 番地
地目 / 山林 建ぺい率 / 7 割 道路 / 5 ~ 6 m 排水溝つき
電気 / 3 相高圧 6600V 水道 / 地下 130m ポンプ汲上げ完了
温泉 / 52℃ の単純泉 7 割配管済 区画 / 350 区画
1 区画 / 330㎡ ~ 1000㎡ 価格 / 1㎡ 当り 6000 ~ 12,000 円
温泉権 / 1 口 500,000 円 工事負担金 / 1 区画 50,000 円



日絵観光株式会社

本社 東京都渋谷区道玄坂 1 - 19 - 9 暁ビル
支店 福島県白河市中町 24 トミヤビル
免許 建設大臣 (1) 919 号

お問合せ
(462)
1161(代)